

1	審議会名	第10回 塩田地域協議会
2	日 時	平成22年12月16日 午後1時30分から午後4時20分まで
3	会 場	上田市塩田公民館小ホール
4	出席者	石黒委員、伊藤委員、大口委員、岡村委員、甲田委員、小林委員、清水委員、関田委員、竹下委員、玉木委員、中村委員、南雲委員、西澤委員、丸山委員、峯村委員、宮沢委員、山極委員
5	市側出席者	神林塩田地域自治センター長、志摩センター長補佐
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者 1人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成22年12月24日

協 議 事 項 等

1 開 会（神林自治センター長）

2 地域協議会長あいさつ

先月には、県外の地域協議会の視察を受け入れ貴重な意見を出してもらった。地域交通に関する学習会において、学んだことについて塩田地域でも検討したい。安心、安全な地域を目指して、「地域まちづくり方針」の見直しについて、活発な意見交換と審議をお願いしたい。

3 協議

(1) 第一次上田市総合計画「地域まちづくり方針」の見直しについて

塩田地域における「地域まちづくり方針」の見直しについての説明（地域自治センター）

（会長補足説明） 活動拠点としての地域自治センターが完成した。観光については、案内看板の整備や観光ボランティアガイド、別所線電車の活用などが挙げられる。農業の活性化については、営農活性化や農林業体験施設の充実などが課題である。他には、大学との連携や交通アクセスの円滑化がある。豊かな自然の保護と土地の有効活用もある。塩田中学校や地域自治センターを拠点とした、住民の主体的な活動と誰もが参加できるスポーツの振興が重要である。更に、幹線道路網の整備とエコタウンを推進する必要がある。

(質疑応答)

（委員） 自治センターは、整備済みとなるが公民館のあり方として、公民館の利用状況（重点的な利活用）はどうなっているか。

（公民館） 利用に対する公民館の思いと実態はかけ離れている。公民館を地域に活かしてもらいたい。公民館は、地域に役立たないと存在価値がないと考えているが、現状はカルチャー的利用が多いのも実態。今年度、重点事業として学校支援地域本部事業に取り組み、多くの皆さんに協力いただいた。今後も多くの地域住民に関わっていただきたい。また、認知症の問題についても重点事業として取り組み、全ての自治会懇談会で取り上げていただいた。

（委員） 地域として商工業者に何を望むのか、商工業者にも考えはまとまっていない。温泉での宿泊などにあっては、料金の安い上山田へ流れる傾向がある。

（委員） 解放会館（公民館）の使用料について、知られていないので知らせる必要がある。ため池とマダラヤンマの見学会を実施したが、池を干すことはよくない。池の管理者と打ち合わせをするなどして、池の性格（用水池か癒しの池か）を確認する必要がある。豊殿地区のように、デマンドバスが必要となる時代が発生してくる可能性があることの意識を持つ必要がある。大学との連携により「大学前」駅を大切にする住民意識の高揚が重要である。今は、農業振興地域の拡大を中止しているが、下水道区域など農業振興地域除外が必要である。地域の発展と農地を守ることの調整が必要である。

（委員） ボランティアガイドの活動の拡大に期待をする。別所線電車の存続については、城南地域

協議会との意見交換も必要であり、各戸負担についても検討や協議が必要である。松茸山の保存に対する取組みも重要である。

(委員) 世界遺産への取組みなど、具体的な取組みについて明記したほうがよい。幹線道路網の整備と別所線電車存続とは矛盾していないか。

(委員) 上田・青木世界遺産登録を目指す上田市民の会としては、住民運動の盛り上がりが欠けていた。他には、普遍的な歴史資料が不足していた。

(委員) 自治会では、恵まれた自然を守るための活動を展開している。

(委員) 別所線電車に乗るにしても、駅まで行く足の確保が出来ない人がいるので、バスと電車の連携が必要である。ため池には、池にまつわる伝説や説明が必要である。「とっこ館」の取組みとして、主婦になじみの料理講習会の回数を増やしてもらいたい。荒廃地の活用のほか、外来植物の駆除も必要である。

(委員) 地域に役立つため池の活用や別所温泉の活動を盛り込むべきである。公民館で行なっている中西先生の講座は、何人の方が受講したか知らないが多くの人に受講してもらいたい。地域としては、尻無川の清掃に取り組んでいる。

(委員) 自治会連合会と振興会の連携が必要である。豊殿地区循環バス運営委員会の取組みとして、運営費の各戸負担運動はすばらしいもので、豊殿地区は素地があると感じた。まちづくりは、将来の生活を考えながら取り組んでいかないといけない。将来の塩田を描くことが重要である。さくら国際高等学校の、地域に対する考え方は重要であり、別所線電車利用にも通ずるものがある。

(委員) 別所線電車存続については、3年後に向けた取組みが必要であり、合わせてさくら国際高等学校のPRも必要である。PTAでは、講演会の公開を考えており、社会活動としてスポーツ施設の整備を要望したい。

(委員) 7項目に渡る段取りや手法について、反省するとすれば多くを取り残している。一つ一つの実現について触れてくるべきだったと思う。塩田中学校や自治センター、別所線電車については対応してきたが、緑農ゾーンの整備促進や計画的な土地利用の推進などは、全くといっていいほど出来ていない。協議会の方針を自分のものとしなければいけなかったと思う。実践の手法について考えるべきは、担い手をどうするのかなど担い手との連携について真剣に検討すべきである。緑農ゾーンの整備促進や計画的な土地利用の推進などは、担い手がないと出来ない事業であり、楽しい農業など新しい展開を求める必要がある。

(委員) 塩田地域全体で出来ることはないものか。手塚では、地域ボランティアが地域清掃や景観を保全している。豊かな田園と歴史や文化を、塩田地域の発展に結びつけるには、文章が硬すぎるので意識付けが必要である。観光ボランティア養成講座は、136人が受講して30人がボランティアをしているが、塩田地域全体で考えるべきで地域の連携が必要である。

(委員) 別所線電車を活かすための活動を依頼された。別所線電車やしなの鉄道の存続について、苦言を言っている人がいて残念である。

(委員) 合併後すぐに作製した第一次上田市総合計画「地域まちづくり方針」では、「思いつくことを出してください」と言われて思いつくまま出したものである。地域では、看板の乱立問題があって今まで解決されていないので、景観に配慮した看板の設置について取り組みたい。農地にあっては、イノシシやシカなどによる被害があり困っている。

(委員) ボランティアとして、下之郷から別所温泉までの電車の中でハーモニカを吹いたが、別所温泉で宿泊する人はいなかった。東京を出発して草津温泉で一泊の後、塩田を回って帰る観光コースがあるがお金を落とす客がいない。地域は、人がいないと発展しないので、地域協議会として何か役立つことは出来ないものか。別所温泉での宿泊料金が安いといわれているが、住民として観光客にPR出来る事はないものか。上田電鉄の社員は、自社に対してどう思っているのか。駅舎の修繕をお願いしても直さない例がある。

(委員) 1.5時間飲み放題で、一泊10,000円の旅館がある。私鉄は、線路を延伸して周辺土地を開発して利益を上げるものである。上田電鉄は、上田では周辺地域の開発は出来ず、線路と駅を与えられただけのものである。

(委員) 上田電鉄は、別所電車存続に関する取組みについて、地域住民に実態を説明して理解を求めるべきである。住民も理解する中で、上田電鉄と連携していきたいものである。

(委員) 別所温泉では、一泊 8,000 円からの料金設定の旅館がある。

別所電車存続に対しては、各戸負担 1,000 円の他に家から駅まで行きやすくするための、道路改良などの対策が必要である。また、別所温泉では、シーズンオフには安い料金を設定しているので利用してもらいたい。他には、別所温泉魅力創生協議会の活動を広報している。

(委員) 情報の伝達については、広く住民に周知する工夫をして欲しい。

(2) その他

ため池活用委員会からの発言

ため池活用委員会では、本年 2 回の現地調査を行なった結果を受けて、今後の計画について別途協議のうえ提案する。内容としては①ため池マップの作製、②ため池の案内表示板の設置、③ため池の多面的な活用についての提言、④堤の美観についてなどを考えている。

4 その他

特になし

5 閉会

＊ 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1 週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

＊ 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。